

CONTENTS COMBAT

2012.Mar.
No.432

3

Cover Design
Raidsensha(Hidetaka Koyanagi),
Cover Photo
fujiwara
©WORLD PHOTO PRESS 2012



004 旬なモノ、コトにフォーカス
Front Sight

006 【第1特集／ミリタリー】
NEW GENERATION STYLER
OPERATION MORBID MODIFIED
●by Fujiwara

016 USMC Modern Day Marine Expo 2011:
Devil Dog Days
海兵EXPO 2011 地獄の猟犬の日々
●by Robert Bruce

022 【第2特集／トイガンリポート】
TOKYO MARUI
RECCE RIFLE TAN COLOR MODEL
●Photos&Text by Taku

028 CRAFT APPLE WORKS
百式短機関銃シリーズ
●Text by Toshiyuki Kikuzuki ●Photos by Taku

034 WESTERN ARMS
SEECAMP CUSTOM SERIES
●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

048 SUR+ TRIP サープラスのある風景

062 初心者のためのマッチガン&アイテム選び
その3 【ハビハビ隊のアンリミ参戦記】
●Photos&Text by Taku

038 WESTERN ARMS
HOAG N.M. CUSTOM K.K. SPECIAL II &
BOBCHOW SPECIAL Ver.1.5 VINTAGE EDITION
●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

042 MAD POLICE CUSTOM GUN &
TANIO-KOBA GM-7 SIRIESE
●Photos&Text by Taku

054 GOODS & ACCESSORY

070 トイガンニュース
070 WA M1911A1〈シンガー／DX〉
071 WA M1911A1〈イサカ〉
072 WA コングスベルグM1914 CBHW
072 WA ベレッタM92FS〈ダイハード2／バトルダメージ・バージョン〉
073 マルゼン APS-3 LE2012
074 キャロムショット M60 ステージガン
075 ランバントクラシック コルトS.A.A. 1st ML“ディアボロ”

076 世界の兵士図鑑
大日本帝國海軍の軍装
●イラスト・解説：坂本 明

080 女の子だらけのサバイバルゲーム
サバゲギャルフェスタ
●Photos&Text by Taku

085 Militaria Roundup!
WWⅡドイツ軍防寒アノラック&トラウザーズ
●解説：菊月俊之

096 サープラスいじり技術研究所
●写真・文：織本知之

130 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ] 第87回
NAVY SEAL AOR2 森林迷彩装備特集(香港コレクター編)
●解説：松原隆(高知ボンバズ)／●監修：Bonz Or

138 ニッポンのちからこぶ
月刊・自衛隊 第50期レンジャー過程
●取材：菊池雅之

142 PRESENT

184 S&Graf 米軍グッズ

186 中田商店グッズ

097 第63回ビクトリーショー
098 COMBAT RECOMMEND MOVIE 『顔のないスパイ』
100 物欲ワンホール Round 07：コンパクトヘッドライト
104 レア・ミリタリー・テクノロジー
108 ミリタリー雑学講座
112 ミリタリー・コレクション
114 幻妖中隊 #mod.07 ●by FUJIWARA
116 新春ブラックホール2012
117 新連載!! こちら神保町軍装店
118 A STITCH IN TIME
119 MGストーリー ～小峯隆生のできるまで～
122 蛙のゆびさき(中山 蛙)
124 トイガンズジャンクション
161 バックナンバーリスト
162 君は何と闘うのか ～世間の常識との闘い方～ ●文：甲野善紀
164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]
166 アメリカGUN事情 Guns Talk from US
168 ビバ! ナイフ
170 狩野健一郎のシネマ放浪記
171 狩野健一郎の新作DVD紹介
172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
175 読者プレゼント応募方法
176 編集後記





2011年8月30日、カリフォルニア州キャンプ・ペンドルトン海兵基地——スカウト・スナイパー教官のジェイソン・パチェコ3等軍曹が自身の「義足モノポッド」を使ってM40A5スナイパーライフルを構えている。2010年にパチェコはIED（即席爆発装置）によって右膝から下の脚を吹き飛ばされた。ある日、義足の膝部分のクッションがライフル用の三脚架のU字型クッションに似ていることに気づいたパチェコは、自身の義足を使ってライフルを固定する方法を思いついたのである。彼は義足を取り外し、右膝と左脚で固定した上にライフルを乗せるというこの射撃法を編み出した。
[USMC photo by Lance Corporal Timothy Lenzo]

USMC Modern Day Marine Expo 2011: Devil Dog Days

海兵EXPO 2011 地獄の獵犬の日々

「我々の手元には、ここ10年かそこら(の戦争)で『どれくらい量』の酷使され旧式化した装備が山積みになっている状態だ。我々はそれを更新しなければならない。我々は何が必要とされているのか知っているし、あなた方とともにそれを手に入れるための方法も知っている」
——リチャードP.ミルズ海兵中將／海兵戦闘開発部

●Photos & Text by Robert Bruce
Translation by Yu P. Eiwalkee

2011年9月28日、ヴァージニア州クォンティコ海兵基地——MDM2011ゲートの「ウェルカム」横断幕。今回は500社を超える出展となった。



ボーイング社が大々的に展示した新型の軽量型防空システム。かつては、この種の車輛は巨大な装軌式車輛であったが、近年は軽車輛タイプであることが多い。これは機動性の面と価格面の要求による。緑色のトレーラーはその訓練シミュレータで、実際に参加者が操作できるようになっていた。

3つ星の将軍であるミルズは「軍団」の戦術的コンセプトや能力について定義する部門のボスである（正確に言えば海兵戦闘開発および発展管理部の副司令官にして海兵戦闘開発部の司令官、という役職にある）。ごく簡単に言えば、海兵隊員が前線に立った時に「手にしているもの」全般の内容、つまり仕様策定から調達までについての責任を負う将軍である。

その彼が、「現代海兵EXPO 2011 (Modern Day Marine Expo 2011:通称“MDM2011”)」の講演で国防産業界の面々に対して語ったのが、前述のような言葉である。海兵EXPOは招待者しか参加できない「海兵隊のための」装備博覧会とでもいうべきもので、これから海兵隊で採用される(かもしれない)

さまざまなものが一同に介する、未来の海兵隊員のためのイベントである。

業界の現状

よくあるEXPOと海兵EXPOの大きな差は、「ただの冷やかしでは済まない」という点だ。目的が「海兵隊の装備をよりよくすること」に集約された、ある意味「身内の」ショーだからである。

出展各社は「海兵が欲しいが如きもの」を持って来るわけだし、海兵側は「自分が欲しいと思っているもの」をアピールする。この博覧会では不特定多数ではなく「海兵に」興味を持ってもらい、買ってもらわないことには企業側にも意味がないのである。同時に、今後数年の間、海兵がどのような



ピーター・ハラルドセン海兵3等軍曹が、ディフェンス・マニシヨンス社ブースにロングマウンテン・アウトフィッターズ社が展示したサプレッサー付きのFN P90を構えているところ。P90はアメリカではいまひとつ広まっていないが、性能面では軍や司法機関での制式採用に対する障害がないことは知られている。なじみのない5.7mm口径弾、なじみのない構造（整備維持のための教育）などが、採用に二の足を踏ませる最大の要因といえるだろう。



すべての耐久試験を受けたダニエル・ディフェンス社のM4がサンプルとして展示されていた。このM4はダニエル・ディフェンス社内での過酷な試験（高度100フィートのヘリコプターからの投下を含む、およそあらゆる耐久試験）を受けたが、問題なく動作しているという。このような展示は、観覧者に耐久性を印象付けるにはよい方法だろう。

ものを「欲しいと思っている」のかについての情報収集の場にもなる。この会場で各社が収集した情報が、今後の製品開発の基本情報となるだけに、海兵側も企業側も熱心である。情報伝達に齟齬があったら、望みのものが手に入らない/売れない、ということになってしまうからだ。

例えば海兵戦闘開発部の研究報告カンファレンスを見ればそれが判る。大きなトレード・ショーのような催しで似たようなカンファレンスがあっても、興味を持つ参加者は限られているだろう。しかしMDM2011ではほぼ全員が参加する。何しろそのための催しなのだから。

講演者は海兵隊の装備開発・調達の責任者（将官）やプロジェクト・マネジャー級の人々（大佐～中佐クラス）であり、海兵隊の装備研究・開発・試験・要求・ポリシーについて説明する。海兵隊らしい、誤解の余地なく明確な説明である。各社はそれを肝に銘じて、各社の誇る「商材」の改善や新規開発を進める、というわけである。



『スモール・アームズ・ディフェンス・ジャーナル』誌のダン・シーアが、珍しいポーランドのファブリカ・プロニ製の「ミニ・ベリル」モデル96カービンについて説明している。ミニ・ベリルもディフェンス・マニシヨンス社がアメリカでの国内代理店となっている。



ノルウェーのDSG社は非常に面白い弾薬を展示した。この「デュアル・コア・スーパーキャヴィテーティング弾」はもちろん普通に射撃も可能だが、特に水の中から、もしくは水の中へ、あるいは水中での射撃に特化した性能を有しており、水に突っ込んだ時の減衰率が通常よりもはるかに低い。今のところ7.62mm口径弾と12.7mm口径弾がラインナップされている。確かに海軍や海兵は、そのような弾薬には興味を示すだろう。



小型ロボット車輛であるGUSS（Ground Unmanned Support Surrogate:地上無人支援代行車輛）は海兵戦闘研究所（MCWL）のメインの「出し物」である。MCWL、海軍研究部（ONR）、国防先進研究計画局（DARPA）とも協力して進められているGUSSは、海兵、退役海兵、技術者、発明家などの合同チームを中心として進められている。基本的にはメカニカル・ミュール（機械化ロバ）の発展型であり、歩兵部隊に自動的に随伴してくれる荷役ロボットとして開発されている。

とはいえ夢と希望だけが詰まった講演にはなりようがない。ご存知のように、海兵隊に限らず、合衆国軍のすべてが連邦議会からの強力な圧力下にあるのが現状である。そもそも戦争規模は縮小されるし、国内事情もあまりよろしくない。海兵側としてはこの方面についてのもっとも恐ろしい事態、つまり「連邦予算上のアルマゲドン（本当にこういう風に形容した）」を覚悟しなければならない、という説明がなされた。

つまり、かつての海兵隊、「戦争前の」海兵隊と同様に「ごく限られた予算で最大限の成果を挙げる」体制、確実に必要なものを最低限の量だけ調達すること、「試しに高いものを買ってテストしてみる」余地のない状態があり得る、ということである。企業側にとっては突破すべき「門」がさらに狭くなることを意味する。

一方で海兵側は、海兵隊という特異な戦闘部隊特有の諸問題がある以上、遠征・強襲作戦に必要とされる、よりよい装備については「どんな情勢下であろうと常に」必

要とされ続け、よって調達され続けるとも言明した。ミルズの最大の任務がそれである以上、当然である。海兵隊は、各種装備が不適当ないし不足した状態で遠征するとどうなるかについては、1941～42年に散々学んでいる。事前準備でそれが改善できるなら、それに越したことはない。

そんな状況のため、次世代の各種装備は、比較的安価で調達が容易な「連邦議事を説得しやすい」ものになるだろうという展望になっている。戦闘開発部における絶対的宗教上の三位一体である「機動・射撃・通信」をより強化するようなもので、しかも安価であるか、あるいは現行機材のレトロフィット（部分改修・部分交換）で済むようなものがメインとなるだろう。

ハイテク・テント村

MDMIは「世界最大の遠征作戦に特化された軍事EXPO」であるといわれている。そんなものを常時必要としている軍隊は世界広しといえども海兵隊ぐらいしかないので当

RECCE RIFLE TAN COLOR MODEL

東京マルイ
☎03-3605-3312
<http://www.tokyo-marui.co.jp/>



フラッシュハイダーは三叉タイプ。このままでもカッコ良いけど、個人的にはオーソドックスなバードケイジタイプにしたい。こうやって手軽に交換可能なのも魅力のひとつ。

バレルのサイズチェンジは、工具要らずのワンタッチで行なえる。ハイダー、アウターバレルともに14mmの逆ネジで固定されている。外す時は時計回りに回転するだけでOKだ。

次世代電動ガンのラインナップもカラーバリエーションを含めると、この『RECCE RIFLE TAN COLOR MODEL』で16機種(後にSCAR-Hが発売され、現在では18機種)を数える。第1弾モデルとなった「AK74MN」の発売がついこの前のように感じられたが、2007年末のことなので、あれから4年も経過している。月日の経過にも驚かされるが、この短い期間の間に16機種もの次世代電動ガンを生み出す東京マルイの企業としての底力にはいつもながらアタマが下がる。

特殊部隊のためのSPR

アメリカ海軍海上戦闘センター(NSWC-Crane)と特殊部隊SEALSが共同で研究開発し、誕生した『RECCE RIFLE』は、戦地における偵察および狙撃任務に従事する兵士の使用を目的としたモデルである。M4シリーズから受け継がれたアサルトライフルとしての攻撃力に、一撃必殺で敵を仕留めるスナイパーライフルの精度をプラスし、1挺で双方のパフォーマンスを併せ持つモデルとして、SEALSのスナイパーに提供されている。

使用する弾は、スナイパーライフル用に開発された専用の「Mk262」。この弾は、弾頭部分の重量を増やすことによって、弾道



レイルハンドガードからスラリと伸びる16インチバレル。いかにも当たりそうな雰囲気。スナイパーライフルらしい風貌。



アウターバレルを外してしまえばここまで短くなる。これならばインドアなどの狭い空間でもストレスを感じることなく扱える。インナーバレルのサイズは12インチに合わせてある。

その3【ハピハピ隊のアン

リミ参戦記】

いよいよシューティングマッチ本大会デビューのハピハピ隊!! 彼女たちの運命やいかに……。

- 東京マルイ: <http://www.tokyo-marui.co.jp/>
- ノーベルアームズ: <http://www.nobelarms.co.jp/>
- ホビショップフロンティア: <http://frontier1.jp/>

●C-MORE CUP アンリミテッド2011主催: JTSA (<http://jtsa-shooting.org/j/index.php?FrontPage>)



もはや日本のトイガンシューティングの聖地と呼ぶに相応しい、都立産業貿易センター・台東館。各種イベント会場としても、有名な場所である。



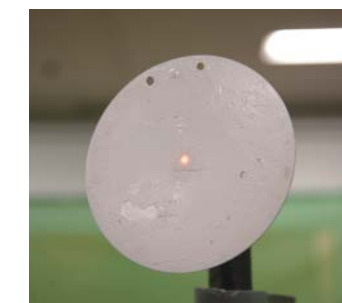
今回から、本部前に設置されたスクリーンで射撃後の成績がライブで配信されるようになった。自分の順位を順次確認出来るという試みは、多くのシューターから好評だった。



試合会場の風景。全部で5つのコースで設定されている。ひとつひとつのコースはパーティションで仕切られていて、誤射や見にくさは感じられない。

年末も押し迫った12月第1週の日曜日。トイガン・ファンにはお馴染みの都立産業貿易センター・台東館にて『C-MORE CUP アンリミテッド2011』が開催された。いよいよMako & Hazukiの女子大生チーム「ハピハピ隊」の公式戦デビューである。

テッポーすら触ったことのない超初心者の女子大生ふたりが、準備期間2ヵ月らずで本格的なスピードシューティングマッチに参加するなんて……と思うかもしれない。が、実はチョットとした興味とやる気があれば誰でも参加できるのがシューティングマッチであり、決して敷居の高いものではない。一部のマニアだけが楽しんでいるようなイメージを持っている人もいるようだが、彼女たちのように『ただ純粋に射撃をやってみたい』『楽



前回のモノよりも精度の上がった改良型発光プレート。BB弾がヒットすると、その衝撃により中央のLEDが点灯する。点灯は数秒で消えるので、射撃中にもほとんど気にならない。



今回の発光式ターゲットを作成したキットボーイのブース。本戦で使用されていたモノと同じプレートを発売していた。



こういったイベントではお馴染みのLEMサプライのブース。各種シューティング向けグッズをイベント特価にて販売していた。

協賛ショップおよびメーカーより提供された賞品の数々。こういった賞品は参加した選手にとって何よりもウレシイものだ。



シューティング向けの実用性に優れたカスタムパーツの製作販売を行っているフリーダム・アート。多くのシューターが、フリーダム・アートのカスタムパーツを愛用している。



—女の子だらけのサバイバルゲーム—

サバゲギャルフェスタ

女の子の参加大歓迎のビギナー向けサバイバルゲームイベント開催!!
ビギナーからベテランまで楽しめる新しい形のサバイバルゲーム誕生♪

●Photos&Text by Taku ●主催：パソプロジェクト(URL: <http://www.pathos-project.com/>)
●協賛：クラフトアップルワークス/中田商店/BIG OUT/武器屋/ウィリービート/コンバットマガジン/アームズマガジン/SATマガジン

時代が変われば人の考え方も変わるもの。ひと昔前は男ばかりでムサ苦しかったサバゲの世界も、近頃は女の子の参加が多く見られるようになった。とはいえ、その他大勢の男性ユーザーに比べれば、その数はまだまだ少なく、参加者の1割以下が現状である。

そんな現状を打破しようと立ち上がったのが、「西部劇魂」や「皇軍魂」といったリエナクトメント系をはじめ、「戦国の自衛隊」「千葉vs埼玉」「アニメ歩兵魂」など、バラエティに富んだイベントを主催する『パソプロジェクト』だ。より多くの女性参加者を増やすべく、

女の子主体のサバイバルゲームを企画立案するという、多くの男性サバゲファンにとっては救世主のような存在がMCの宮本氏である。

女性参加者が増えれば、男性参加者も増えて業界の活性化に繋がるというのは、どんな業界でも同じこと。当然トイガン業界でも女性参加者を増やすべく、誌面での女性モデルの起用や女性が参加しやすいイベントの開催など、業界全体で力を入れてきた。この『サバゲギャルフェスタ』も業界の活性化に貢献したいと立ち上げられたイベントのひとつなのである。

サバイバルゲームに限らず、トイガンを使用した遊びというのは、銃の形をした特殊なおもちゃを使用する都合上、常にマニアックなイメージがついて回る。これは仕方のないことだが、ただ単純に遊びとして考えた場合、サバイバルゲームやシューティングは、スポーツ性、ゲーム性に富んでいて魅力的なのだ。

別に銃が好きじゃなくても、サバイバルゲームというひとつの遊びとして楽しんでみるのもアリなんじゃないだろうか。実際のところ、ミリタリーには興味がないけど、サバゲはやってみたいという人はかなりいる。そういった人に始



ビギナー向けのサバイバルゲームなので、参加者は手ぶらで来ても気兼ねなく参加できる。ガン、迷彩服、ゴーグルなど、必要なアイテムはすべてレンタルが可能だ。



ひと通りの基本動作を教わったところで、初心者にはひとりひとりにベテランゲーマーが教官役としてつく。完全なるマンツーマン。サバゲでこんなシチュエーションはこれまでに考えられなかった。



いつの間にか、ボクも教官として女の子にレクチャーすることになった。……、ついつい仕事を忘れてしまいます(笑)。



自然と顔がニヤけて、イヤイヤ和気あいあいとレクチャーを行なっているだけ。決して楽しんでいるわけじゃありません。



今回のイベントではかなりの数の参加者がエアソフトガンを手にしたことのない超ビギナー。そこで、まず始めに電動ガンの取り扱い方法と基本的なマナーをスタッフがレクチャーした。



こんなに女の子の参加が多いサバイバルゲームはかつてなかった。そしてとにかく若いカワイイ子ばかり。当然ながら教える方にも熱が入る!!



カワイイ女の子と自分のスキな遊びでお近づきになれるなんて機会はこれ以外にはないだろう。

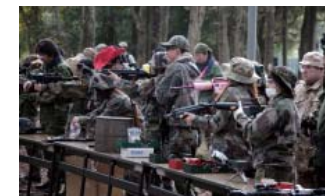


エアソフトガンの取り扱いをレクチャーしていると、突如シューティングレンジに熊(の着ぐるみ:しかも手作り……)が現れた。これは動く標的を狙う練習にうってつけ! こうした余興も初心者にとっては楽しめる要素となる。



男同士じゃ画にならないけど、相手がカワイイ女の子ならこんな作業も苦にならない。こんなことが出会いのきっかけになるかもしれない。

総勢30数名のビギナーたちによる一斉射撃で、熊のからだにつけられた的の風船は割られていった。この着ぐるみは標的に製作されているので、安全対策もバッチリ。



まずはエアソフトガンに慣れもらうために、ひたすら撃ってもらおう。こうして数を撃つことで、ガンの取り扱い方も自然にマスターするのだ